



KYOTO
地球環境の殿堂

未

MIRAIKAI GI

未来会議

環境マスターへの
一歩を踏み出そう！



「KYOTO地球環境の殿堂」とは

「京都議定書」誕生の地である京都の名のもと、世界で地球環境の保全に多大な貢献をされた方の功績を永く後世にわたって称えるものです。その功績を気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)が開催された、国立京都国際会館に展示し、京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人々の意志の共有と取組に資することを目的としています。

「KYOTO地球環境の殿堂」未来会議とは

国内外の高校生・大学生総勢106名が、府内各地でのフィールドワークを通じて、古来文学、伝統産業、森里海の3つのテーマで、自然と調和してきた日本人の精神(心)、古来から続く技、自然と共生した暮らしについて探究しました。探究の成果は、「未来への宣言」として9月20日に開催された「KYOTO地球環境の殿堂」国際会議・未来会議の場において、世界に向けて発信しました。



古来文学

探究プロジェクト

日本独自の古来文学(古今和歌集、枕草子、徒然草)に触れ、当時の人間と文学に登場する動植物がどのような関係性を保っているのか、古来の文化と自然の共存・調和の事例やその現状を探究しました。

テーマ 日本 の 古来文学 に 描かれた 自然 と 文化 の 共生 を 探る



枕草子にも登場するフタバアオイを観察 @京都市立植物園

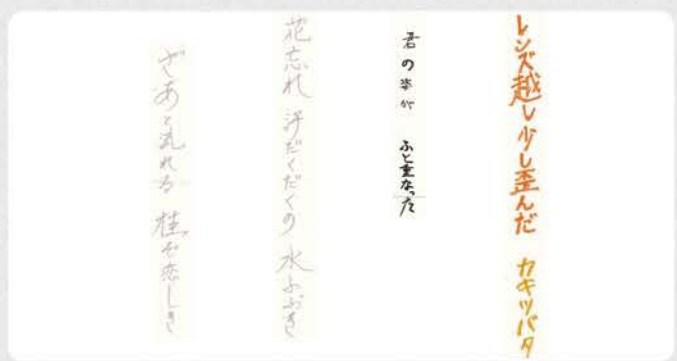


古来文学で季節感や情緒を表す重要な要素として描かれる虫の音鑑賞を実際に体験 @嵯峨嵐山(桂川河川敷)

参加者の感想 | 遠く時代の離れた人々が、今の私が見ているものと同じ花、木、草から何を感じ取りどう表現したのかについて考えるきっかけになりました。



出典:内閣府ウェブサイト(https://www.geihinkan.go.jp/kyoto/fuji_no_ma/)
自然を愛でる感性が織り込まれた調度品を観察 @京都迎賓館



古来文学に息づく「自然と人の心の響き合い」を、自ら和歌を詠むことで体感

参加者の感想 | 古来の日本には、身の回りの自然に想いを寄せ、大切にしながら楽しむ風潮があり、生活と自然が密接に関わっていたことを学びました。

参加者の 学びや気づきの視点



出典: ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>)をもとに作成



春夏秋冬のはっきりとした日本において、先人たちは、身近な動植物に親しみ、その姿や音、香り、触感を通じて美を見出し、五感で味わう文化を育んできた。



恋心や繊細な感情を、季節の移ろいや自然に重ねて表現するなど自然を通じて心を表してきた。また、マツムシやスズムシなど声の美しい虫を選び宮中に献上する等、動植物と密接な関係性を築いてきた。



古来文学に描かれている動植物は、現代の建築様式や文様、装飾等にも息づいており、こうした文化の継承には、自然との共存・調和が必要不可欠である。

伝統産業 探究プロジェクト

国内で古くから使用されてきた天然塗料「漆」について、伝統技術を守りながらも時代のニーズに対応した新たな挑戦を学びつつ、産地の現状や自然と人間の関係性(生態系)を探究しました。

// テーマ // 「漆」を通じて産地の現状や自然と人の関係性を探る



工場で漆が精製される様子を見学 @堤浅吉漆店



生漆(さうるし)を箸に塗る拭き漆を体験 @堤浅吉漆店

参加者の感想

今回の体験を通じて、人間が自然のありがたみを忘れたために、環境に関心を持つことができず、自然と密接に関わる伝統産業にも関心がなくなってしまったと感じました。



森林散策をしながら植生や漆の植樹の難しさを体感 @合併記念の森(工芸の森)



漆の木から樹液をとる「漆掻き」された木を見ながら、漆を育てる環境の変遷を学習 @ファビレッジ京北

参加者の感想

現代の「すぐに手に入る、使える」という感覚とは対照的で、こうした文化の根幹には、自然は有限であるという理解が必要だと感じました。

参加者の 学びや気づきの視点



漆は樹液が採取できるまで、木を植えてから10～15年の歳月を要する。そこには長い時間のスケールの中で、自然と共存した暮らしが存在する。



塗料や接着剤として、漆は約1万年以上も前の縄文時代から使われてきた。技術を継承するために、私たちは受け継がれてきた歴史や職人の手仕事を守りつないでいく意義を考える必要がある。



漆塗りのサーフボードは、これまで伝統工芸に関わりのなかった人へも漆の魅力を伝えている。伝統と新しい発想の融合など、変わらないために変化を加えていくことも大切。

森 里 海 探究プロジェクト

食料や木材などを供給し、人と自然の共生の暮らしが営まれてきた森里海について、古来からの資源循環の仕組みや生態系保全の事例、またその現状を探究しました。

// テーマ // 森・里・海をつなぐ自然の循環と人の営みを探る



除伐体験を通じて、森林を健全に保つには人の手による管理が欠かせないことを実感 @ハビロー!の森 京都



川は森と海を結ぶ重要な存在であり、流域全体で環境が連動していることを実感 @保津川

参加者の感想

「環境問題は一つの場所だけで起こるのではなく、いろいろな問題がつながり合って起こるものだ」というお話は、とても印象的でした。



川に流れ着くゴミは、生活や産業活動の結果であり、海洋汚染にもつながることを学習 @亀岡市内



資源を守りながら利用する漁法である定置網漁業を体験し、海の資源利用と持続可能性を体感 @養老漁港

参加者の感想

定置網漁業を体験する中で、必要以上に漁獲をせず、持続可能な漁業を実現しているということを学びました。

// 参加者の 学びや気づきの視点 //



森林は酸素の生成など、人間にとって不可欠な存在であるが、人の手により維持されてきた人工林や里山林は、放置すると荒廃していくことから、日光が地表に差し込むよう伐採するなど、適切なタイミングで手を加えることが重要。



雨水がろ過され、ミネラルを含んだ水が川から海に流れていく自然の循環は、森・川・海が密接に結びついている証。川の美化活動を通じてゴミが海へ流れ込み、やがて世界の海洋汚染につながることを学んだ。人の行動が地球規模の環境に影響することを意識することが重要。



山では除伐による森林管理、海では定置網漁業など、古くから続く方法には、自然の恵みを必要な分だけ利用し、資源を枯渇させない工夫が込められていた。こうした知恵は、現在の持続可能な社会を実現するために学ぶべき大切なもの。

古来の人々の自然を楽しむ心を見習い、日常の生活の家屋や製品に自然を取り入れ、**人間と自然が調和する社会を実現したい**です。

近年、季節ごとの情景が失われつつあり、私たちの感受性も失われつつあると思います。そこで私たちは、**人との交流が大きな価値を持つ**と考えます。だからこそ、人が人とつながり人であるために、詩を書いてほしいのです。「書いてごらん 未来へきつと届くから 今この瞬間 響いたのなら」

いま私たちに求められているのは自然に目を向け、健全な自然を保つことです。自然を守ることは私たちの文化や営みを守ることにともなわれます。**自然に対する思いやりの心を持ち、自然と共生する社会を目指しましょう。**

環境破壊が続いているのは、その場所で生きるあらゆる者の目線で考えられていないという証拠だと思っています。私たちは今一度、**他者の視点に立ってみるべき**ではないでしょうか。

古来文学 探究プロジェクト

私たちの暮らしと自然がもっともっと共存していけるようにしたいです。わたしたちが考える理想は、**植物などの自然を屋内や家で育てたり、定期的に通う場所が自然で溢れている未来**です。

「日入りはてて 風の音 蟲の音など はたいうべきにあらず」清少納言が枕草子で称えたように、自然の音は私たちの心を豊かにしてくれます。スマホを閉じて、耳を澄ませ静かな贅沢を感じながら眠りについてみませんか。そうした**小さな気づきが自然を大切に**する心につながり、**未来の環境を守る一歩につながる**のではないのでしょうか。

自然は、言語や国境の壁を越え、私たちを結びつける「共通の言語」と言えるでしょう。自然を失うということは、文化や人のつながりを失ってしまうということです。文化と自然の双方を大切にすることが、未来をより豊かにする鍵となるでしょう。

未来会議を終えて、世界に向けたメッセージ

私たちは**作られた「モノ」のみではなく、「伝統技術」そのものも伝統であると発信をしていきたい**です。

伝統産業 探究プロジェクト

伝統産業の後継者不足という課題に対して、**若い人に伝統産業の体験を普及するイベントを実施することは有効**だと思います。若い人の「好き」を広げると、伝統産業に興味がある人が増え、後継者不足を解消できるきっかけになるのではないのでしょうか。

キズのついた木を見て、商品の価値が下がってしまうと思う人もいるでしょう。しかしこれをデザインと捉えることもできるのではないのでしょうか。**ものの見方や視点を変えることで、何度も繰り返し使う無駄のない社会につながる**のではないのでしょうか。

人間の利益ばかりを追求めると、自然との関わり方が極端に減ってしまうのではないのでしょうか。私たちは大規模な開発を控え、**自然との適切な関わり方を構築していかなければならない**のです。**「生まれた時より美しく」次世代についでいくことが根本の解決につながる**と思います。

森里海 探究プロジェクト

学校などの教育現場では自然にまつわるフィールドワークを作り、地域の中ではその地域の自然に触れあえる機会を作ることが大切だと考えます。**2050年の未来では、「自然が隣人」となる未来を目指したい**です。

川の汚染が続くと、漁業ができなくなるかもしれません。だから私たちは、**川のごみを拾ったり、木を伐採したり植林する行動を地域のひとと続けていきたい**です。

森林伐採は、一見悪い印象を抱きますが、若い草木に日光が当たり、より成長しやすくなるという利点もあります。**私たちは「知る」ことで、行動して発信します。そうするとまた知った人が行動し、循環が生まれる。「知る」ということから一歩を踏み出してみませんか。**



地球にやさしく、私 さあ、君も未来会議

STEP1

身近な問題を見つけよう！

「環境問題」と聞くと、地球規模の大きな話に感じるかもしれません。でも、実は私たちのすぐ近くにも、環境の課題はたくさんあります。まずは、学校や家のまわり(半径3kmくらい)を歩いてみよう。目で見て、耳で聞いて、感じたことをメモしてみよう。

散策エリアは？

どんな人や生き物等が関係している？
(例：野生動物、魚など)

どのような問題を発見したかな？
(例：ゴミのポイ捨て、川の水が汚れている、など)

なぜその問題が起きていると思う？

STEP2

身近な問題から 地球のミライにつないでみよう！

STEP1で見つけた問題をきっかけに、友達と一緒にアイデアを出し合いながら「地球にやさしくする」ことを考えてみよう。

1. STEP1であなたが見つけた問題は、次のどのテーマに関係しているか考えよう。
(あてはまるものがない場合は、自分でテーマを作って書き込んでみよう)
2. あなたが見つけた問題がどうすれば解決するか考え、「地球にやさしくする」ことにつながる良い循環を書き込んでみよう。
3. 友達が見つけた良循環も書き込んでみよう。
4. それぞれの取組が他のテーマの取組とどうつながっているか考え、線で結んでみよう。





たちにできること を体験してみよう！

STEP4

自分自身にできることは何か
 将来どのような活動をしているか、
 想像してみよう！

環境問題を解決するために自分がすべき事を具体化してみよう。

STEP3

友達と意見交換した内容を
 書き出してみよう！

「なるほど!」と思った友達の考えは?/自分の考えとどう違った?



未来への宣言

現代を生きる私たちは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇といった地球環境課題に加え、古来文学に描かれてきた自然の儚さを伝え合う感性が日々の忙しさの中で失われ、スマートフォンやSNSの普及により自然の声に耳を傾ける余裕がなくなりました。

経済性、効率性のみを求めた大量生産・大量消費の結果、伝統産業の基盤になる自然に対する畏敬の念が薄れ、ものづくりがつながり人と自然の関係が希薄化しました。

自然とふれあう機会が減少することで、本来もつ森里海のつながりが見えにくくなり、生活と自然が分離してしまいました。

こうした課題を前に、私たちは、誇るべき京都の先人たちの歩みを受け継ぎ、未来に向けて次のことに取り組みます。

日常の中で自然を楽しみ、いのちを慈しむ心を大切にし、その価値や魅力を多くの人々と共有していきたい。

時代と共に新しいものを取り入れ進化してきた伝統を深く理解し、新たな変化を起こす挑戦をしていきたい。

地球環境課題を自分事として捉え、生まれた時よりも美しい環境を次の世代に引き継いでいきたい。



未来への宣言を世界に向けて発信



未来への宣言を「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会会長の山極氏へお渡し

「KYOTO地球環境の殿堂」のこれまでの活動は、公式HPもご覧ください。

KYOTO地球環境の殿堂



「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会

京都府、京都市、京都商工会議所、環境省、人間文化研究機構総合地球環境学研究所、(公財)国際高等研究所、(公財)国立京都国際会館

京都環境文化学術フォーラム

京都府、京都市、京都大学、京都府立大学、人間文化研究機構総合地球環境学研究所、人間文化研究機構国際日本文化研究センター



大阪・関西万博公式キャラクター
ミャクミャク@Expo 2025
(京都府・京都市)